



寄稿

1 和歌山移住と 起業と 多業マルチワーク



きみの さいか亭

水島 千絵



●はじめに

東京から和歌山県紀美野町に単身で移住して9年目に入ります。現在は、和菓子cafeを併設したゲストハウス「きみの さいか亭」を経営、隙間時間に農業のアルバイト等をしながらの多業暮らしですが、段々と和歌山の人になっていく自分を楽しみながら、日々生活しています。今回ご縁を頂きまして、私から見た「和歌山移住と仕事と暮らし」についてお話をさせて頂きたいと思います。(1969年岡山県津山市(旧苫田群加茂町)生まれ。実家は田舎の和菓子店。地元の高校を卒業後、進学のため東京へ～29年間東京/埼玉在住。)

移住前は、昼は和食店ホール、夜はカラオケバー、在宅で音楽配信業務の3つ掛け持ち仕事をやっていました。ハードでしたが、楽しく充実した生活を送っていました。が、40代になった頃「今はまだこのペースで出来るが、10年後同じペースで仕事ができるだろうか?」と考え始めました。その後2～3年ほど【80歳まで働ける仕事は何か?】を模索し、当時ちらほら聞き始めた「民泊」をやりたいと考えようになりました。

当初は、オリンピックが決まっていた東京での起業を考えていましたが、持ち家や資金力が無ければ難しく断念。地方での起業に変更～都内の「ふるさと回帰支援センター」へ相談に行きました。私が移住地を選ぶ時の条件は、①海が近い山間部②国際空港に近い③実家の岡山県に比較的近い、の3つでした。最終的に紀美野町に決めたのは、この3つの条件に当てはまっていることと、地域おこし協力隊に応募～採用となり、一気に移住へと動き出しました。

●地域おこし協力隊へ

地域おこし協力隊とは、地方自治体が都市地域からの移住者を『地域おこし協力隊員』として任命し、農業・漁業への従事、地域の魅力PR、お祭りやイベントの運営など、様々な地域協力活動を行いながらその地域への定

住・定着を図る総務省の取組です。任期は概ね3年。私は紀美野町小川地区の地域団体が運営している「小川の郷直売所」、地域コミュニティ宿泊施設「風の森」の立ち上げ&イベントのサポートをさせていただきました。

私の今までの職歴は、音楽/飲食業界がほとんどで、役所や地域コミュニティとはほぼ無縁の人生だったのですが、協力隊という仕事のおかげで、行政の仕事や地域、暮らす人々の生活を知ることが出来ました。着任当初しばらくは、「仕事場と住まいが同じ地域」という環境に慣れずに苦労しましたが、おかげさまで今は「仕事場と住まいが同じ」でも平気になりました。慣れるということは有難いことです。地域おこし協力隊3年目からは、町内の私立りら創造芸術高等学校の寮母とのダブルワークになりました。実は知人がりら高の特別講師で、移住前から紀美野町のことは聞いていまして、「きみの」という響きが良いな、と感じて覚えていました。やはりご縁があったのかもしれません。

寮母の勤務は、月曜日の夜から金曜日の朝までで、平日は寮生と一緒に生活していました。朝寮生を学校に送り出した後、協力隊の仕事に出勤します。そして夕方また寮へ。これまたハードな生活でしたが、音楽とダンスと演劇に囲まれ、大人と子供の狭間にいる生徒たちと！刺激的な毎日でした。私も高校は寮生活でしたので、当時を思い出しながら、対応の日々。「なぜ言うことを聞かないのか？」と悩んだ時も多かったのですが、よくよく考えれば、私も高校の時は大人の言うことは聞かなかったですね。お相子です。

私自身が「食べている人を見るのが好き」という事を気づいたのが、寮母の時でした。人が食べているのを見るのが何故かとても好きです。寮母を始める際、私は教師でも子供を持った親でもない身ですので、自分が出来ること→食べるものを作るくらいかな？と思い、朝食の1～2品を作っていました。夕食は地元のお母さん方が作ってくださるので

すが、朝食は寮生の当番が基本作ります。私はその他のおかずを作っていたのですが、何を作ったら食べてくれるかな？を考えながら作るの、創造的で挑戦的な楽しい日々でありました。

●起業した途端、大ピンチに！

協力隊の任期が終わり、寮母と飲食店の仕事を掛け持ちしながら、当初の目的だった宿泊業のための物件探しも同時に行っていました。協力隊時代の担当地域を中心に、きみの定住を支援する会から空き家を紹介して頂き、何軒か見に行きましたが、大規模リフォームが必要な物件が多く難航。対象地域を広げて探したところ、今の物件をお借りすることができました。さいか亭がある場所は、紀美野町の中心部で、住宅が多い地域です。最初はぼつんと一軒家のような山間部をイメージしていたのですが、リフォームほぼ無しですぐ使える物件/海南駅からのバスが利用できるという利点があり、この利点を生かす方向に変更。役場職員、家主さんとお話しさせて頂く中で、「さいか亭」という名前も決定しました。家主さんのお名前は「雑賀」さん。和歌山県らしい名前で、娘さん3人がご結婚され別姓になっていること、地域の方も覚えやすい、「雑賀邸」→「さいか亭」になりました。響きも良いので気に入っています。

2020年2月から物件をお借りし、掃除を始めた頃、世間では横浜港に停泊したダイヤモンドプリンセス号のニュースがちらほら入り始めました。そう、新型コロナウイルス感染症が日本に入ってきたのです。この時は遠くで起こっている他人事の様に聞いていました。が、皆様ご存じの様に世の中が変わってしまひまして、宿泊業は一旦保留。いま出来ることをと、cafeと(月)限定のテイクアウト弁当の販売を始めました。

開業から3年間は飲食を主にやっていくことになります。今になってみると、この時の飲食の経験が大変貴重でした。何事もなく宿泊



会議/行楽用弁当

業だけやっていたら、お客様は外部の方（町外）のみになっていました。飲食、特にお弁当をやらせてもらったおかげ

で、地元の方がお客様になってくださり、現在の宴会/会議用弁当/オードブルの需要に繋がっています。協力隊の時に世話になった方々が本当に応援してくださいました。コロナが無く順調に進んでいたら、地元の方との繋がりにはあまり持てなかったかもしれません。と思うと、苦しかったですが、悪いことばかりでは無かったと！

●ゲストハウス始動

コロナもようやく収束し、2023年2月宿泊業をスタートすることになります。さいか亭



ゲストハウス棟

は1日1組1棟貸しですが、場所の利点を生かし、ビジネスのお客様の需要も見込み、お一人様からご宿泊可能、タオル/寝間着/歯ブ



和室10畳（撮影・円香StudioZERO）

ラシのアメニティーも完備しています。お客様の割合は日本人60%、インバウンド40%、インバウンドは民泊サイトAirbnb経由の予約と、「紀美野民泊協議会」の教育旅行受入れがあります。

教育旅行は日本/海外からの小～高校生のホームステイで、一般家庭と私達のような宿泊業者で受入れをします。ほとんどが一泊という短い時間ですが、畑での野菜収穫体験/一緒に夕食作り/夜は花火やホタルや星空観賞をします。子供たちと過ごす時間は大変楽しく、海外の子供たちとは、私の英語の訓練にもなっています。海外の子供たちは、こちらが想像していしていたよりも日本のアニメ/漫画/キャラクターに詳しく、インターネットの普及で、リアルタイムで最新の日本アニメをチェックしています。驚きです。教育旅行ではマレー



教育旅行ではシーツ掛けも自分たちで行います。



みんなで夕飯作り

シア/台湾/中国の子供たちを受入れしてきました。特にマレーシアはイスラム教の国なので、アルコールや豚肉がNG。ハラル対応の料理も協議会の方々と勉強しながら、作っています。何回か受入れした結果、手巻き寿司（玉子焼きとサーモンとツナマヨが人気）と唐揚げが定番夕食となりました。これは日本の子供たちと変わらないですね。

●お客様との会話

ゲストハウスを始めて、お客様とお話をする機会が増えたように思います。Cafeや宴会の時もお話はさせていただきますが、キッチンの仕事に手間取り、ゆっくりお話する時間が持てない時が多いような気がします。それが気がかりでした。宿泊の場合、私もお客様も時間に余裕があるので、時には私もお酒をご一緒しながら、日付が変わる頃まで話し込んでいたこともあります。その時は、お客様ですが、友人のような家族のような気分になります。そういう立ち位置にいる事が好きなのだと実感しています。

その様な事を繰り返してしていくうちに、こんなことを考えるようになりました。料理や和菓子を作ることも好きなのですが、多分接客が最も好きということが段々分かってきたのです。私は元々非常に人見知りの性格ですが、人と接したい欲求も強く、なんとか克服したく、過去ナイトワークをしながら慣れていき、素を出すことや自分の居場所を見つけた経緯があります。さいか亭の今後や自分の特性を考えると、人と接する方向..体験メニューやゆっくり時間をかけた接客の方向にこれからはシフトしたいと思っています。

●こぶな草を守る会

さいか亭をお借りする際に、もれなく畑も付いてきました。家主さんからは「何植えてもOK。草刈はお願いしますね。」「わかりました!」と無謀にも8月昼間の草刈を行い、寝込んだこともありましたが。2年目に入った頃、町

内で活動されている染織家の舟山れいら先生が「貴重なこぶな草がこんなに生えている!草刈しないで!」こぶな草（小鮒草）という草木染に使われる草が生えていたのです。古代黄八丈（八丈島に伝わる染織織物/深い黄色）を染めるための草でした。こぶな草は恐らく様々な場所で生えているようですが、群生しているのは珍しく、さいか亭の畑（元田んぼ）が、何年か耕作放棄地で、湿地の様な状態がこぶな草には最適だった様で、群生したと思われます。

舟山先生に教わった事ですが、綿や絹などを草木で染めると、デザインの的にも変化がありオリジナリティも楽しめる+草木染には薬効成分が含まれているので、身体にも良い効果があることを知りました。（例えば藍染は、タンズに入れておくと虫よけ効果があるそうです。）薄くなるため何回も染めながら、大切に使い続ける、今流行りのS〇〇〇と同じですね。こぶな草発見!からは、舟山先生が発起人で「こぶな草を守る会」を立ち上げ、畑の整備/遊歩道作り/こぶな草染め体験会/畑で採れた里芋を使った「芋煮会」等こぶな草の魅力を発信する活動をされています。この活動は和歌山県の「農業農村活性化支援モデル事業」に指定されています。染め体験会やイベントはさいか亭のSNSで発信していますので、ご興味ある方はぜひご参加下さい。



こぶな草染め体験会

●和歌山ライフ

移住して一番変化したのは、野菜果物の摂取量でしょうか？東京でも自宅近くの産直マーケットを利用していましたが、移住後、頂きものや自家栽培や価格の安さで、量・種類共、段違いに増えました。野菜果物の割合が増えると、食事のレベルが格段に上がりますね。本当に満足しています。レジャー面は、東京時代から休みの日にはスーパー銭湯、温泉にハマっていました。和歌山に移住し、周囲に温泉が沢山あり、堪能しています。最近丸一日ゆっくりできる機会がなかなかないのですが、隙間を見つけては行っています。探したところ、和歌山県内に24時間仮眠室があるスーパー銭湯（温泉）が無い？ので、出来たら良いなと思っています。移住して驚いたのは、「餅まき」があること。岡山にも餅まきは有りましたが、新築の棟上げ式の時のみです。子供の頃、親に言われて参加していました。（多分今はほとんどないと思います。）岡山や関東では、神社や寺やイベントのハイライトとして餅まきはやりません。

私が以前住んでいた紀美野町小川地区では、班の数世帯ほどでも餅まきを行い、皆さん楽しみにしていた一大エンターティメントでした。今は住宅街に移ったため、餅まきはなく、あの、ちょっと面倒くさいけど、密やかな厳かなイベントが今では懐かしいと思っています。和歌山の餅まきが残っていることは、歴史的な意味があると感じています。どなたかご存じの方がいらっしゃいましたら教えてくださいませんか？

●隙間に入り込むマルチワーク

移住前から、幸いか不幸か多業マルチワーカーでした。起業後もオフシーズンや隙間の時間を見つけて、主に農業の収穫のアルバイトに行っています。年末～年明けはみかん、2月は八朔、6月は梅、夏は山椒、秋は柿…。収穫作業は体力を使いますが、筋トレと気分転換になるので、積極的に行っています。収穫

の仕事を始めて、指示通りに動くことの有難さを痛感しています。自営業ではすべて自分で考えなければいけないので、指示してくれる人がいることが嬉しいと感じます。これはお勤めしていた時には考えもしなかったことでした。

また今年は、農林業センサスという農林業の調査も仰せつかっております。これは以前、協力隊時代にさせて頂きまして、小川地区の農林業のお宅に伺い、調査票の記入をお願いしてきました。久しぶりに懐かしい方々にお会いするのが楽しみです。以前町内のセミナーでお話しさせて頂く機会があり、主催者から「マルチワークについて詳しく聞かせて欲しい」とのご要望がありました。コツという程大げさなものではないですが、自分が心掛けていることをご紹介しますと思います。例えば3つの仕事を掛け持ちする時、優先順位1～3位と順番がつくと思います。報酬や時間、コスト、人間関係等色々な面で順位が決まると思うのですが、「取り組む姿勢や熱量は全て平等にする」ということを心掛けています。このバランスが崩れると、優先順位が下の仕事は「腰掛け」の状態になってしまい、知らず知らずのうちに他の仕事にも影響が出てきます。3つの仕事を、独立した状態で同じ熱量で完結させると、相乗効果で良い方向に向かうことがあります。不思議ですね。

●さいごに

私は今年で56歳になります。80歳まで現役で働きたいと願い、選んだ仕事が宿泊業で、選んだ場所が和歌山県紀美野町でした。周りには80歳超えても現役でバリバリ仕事されている方々が多く、本当に勇気づけられます。今後は筋力を落とさないよう、趣味のプール通いも続け、好奇心を持ち続けたいと思っています。最後までお読みいただきありがとうございました。